

文献紹介

日本地名学研究所編 日本歴史地名総索引

全3巻：名著出版，1980年，B5判 2280頁，
49,000円

歴史学，地理学を始めとして，民俗学，言語学，考古学など広い分野の学問研究や調査に従事する人人にとって，地名は重要な手がかりであり，資料である。しかし，第2次大戦後全国的に強行された地名の統廃合や改変は，由緒ある地名を手がかりとする調査や研究に，大きな障害をもたらした。本書の刊行は，この種の不便や障害を取り除く新兵器が，また一つ登場したことを意味する。

本書は，五十音順索引と画引索引の両者を備えた，全国「大字」地名を対象とした総索引である。収められた地名は，昭和17～22年のもので，その総数は十数万に達する。

それぞれの地名ごとに，名称，読み仮名（旧仮名遣い表記），県名，国名，市・郡名，町・村名，備考の順序で記述され，表にまとめてあるので，参照する際きわめて便利である。

各地名の現地呼称についても，次に掲げる資料を参照し，事実誤認がないように慎重を記している。

『地名索引』内務省地理局編，1885年

『帝国地名大辞典』富本時次郎著，1903年

『大日本地名辞書』吉田東伍著，1907年

『帝国地名辞典』太田為三郎著，1912年

『市町村大字読方名彙』小川琢治著，1923年

『大日本市町村案内』大類哲夫著，1959年

筆者は試みに，荘園村の代表的地名の一つとされている「別所」を，本書で引いてみた。その結果，この地名は全国に，大字単位で約70あることがわかった。そればかりでない。県別に整理されているので，その分布状況が一目でわかるのである。即ち，北は青森県中津軽郡舟沢村（現在の弘前市）にある「中別所」から，南は福岡県筑紫郡岩戸村（現在の那珂川町）までに分布し，なかでも大阪府7，石川県6，京都・奈良・埼玉県各5などの府県に集中していること，また東北1，九州1の分布数からわか

るように，北日本や九州にはほとんどないことなどが，瞬時に判明するのである。

このように行き届いた編集が，いかにしんどく，時間と金と人手がいるものであるかは，容易に想像できよう。なにしろ編集作業の開始時期は，あの無謀な太平洋戦争に突入して間もない昭和17年3月である。日本全国が，つかの間の局地戦の勝利を伝える大本営発表に有頂天となって，浮かれていた時のことであった。

このような時期に，本書の編集を始められた日本地名学研究所の前所長の中野文彦氏，同研究所の現所長の池田末則氏，その他の関係された人々，そして出版を引き受けた名著出版に改めて敬意を表したい。まだコンピューターやコピー用事務機器もなく，戦争中から戦後の苦しい時期に，伝え聞くとこころによれば莫大な私財までつぎ込んで，時にはスパイと間違えられながら，よくぞここまで漕ぎつけたものだと思う。

もちろん，本書に欠点がないわけではない。使用する際，不便に感じたこととして，この本が，『全国地名総索引』（ペン書き稿本，全7冊）を全3巻に合本し，影印覆刻したものであり，その際『日本歴史地名総索引』と改題したため，稿本担当者の筆跡や，字の大きさによって，判読が必ずしも容易ではない部分が皆無とはいえない点をあげておきたい。小さい字の筆記体で書かれた地名の部分は，特に年配の方々の利用に，若干の困難が伴うものと思われる。

しかし繰り返しになるが，このような欠点を有するにせよ，本書はきわめて便利で有用な地名索引であり，大学，出版社，研究所，中央および地方公共団体，図書館，新聞社などはいうにおよばず中・高校や短大の社会科や地理・歴史の準備室，地名に関心を有する全ての人々——専門家，教職者，文筆家などを含む——にとって，是非座右に備えておきたい書物の一つである，と私は思う。

（久保田 武・都立西高）